



令和7年度 三股町立梶山小学校 学校だより(No18)

かじやま

かんどうがいっぱい じまんがいっぱい やる気じゅう分 毎日が楽しい 梶山小



R7.12.11(木) : 文責 校長

❖学校運営協議会での報告をとおして❖

12月1日(月)に梶山小学校運営協議会が開かれました。運営協議会のメンバーは、自治公民館長、民生児童委員、歴代PTA会長、保育園長、地区の学識者と本校職員3名の合計12名です。2か月に1回の頻度で協議会を本校で開催し、梶山校区のこと・梶山小のことを、いつも一生懸命に考えていただいている。

この会のメンバーの方々のご協力・ご支援はとても素晴らしい、本当にありがとうございます。

今回、12月1日(月)の梶山小学校運営協議会において、教頭先生が、今年度これまで子供たちの学校生活の様子を、写真で紹介しながら話してくださいました。それを聞いて、梶山小学校では、様々な教育活動が効果的に実施されているなあと、改めて感じたことでした。

保護者の皆様にも、4月から11月までの子供たちのことを、お伝えしたいと思います。

■「自ら学び進んで実践し、知・徳・体のバランスのとれた児童」の育成→自立・貢献できる人

【知】確かな学力(わくわくいっぱい)

①学力向上の推進 ②特別支援教育の推進



本校では、「学力向上」と「特別支援教育」に力を入れています。「特別支援教育」は、「対象となる子供一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を確認して伸ばし、学習や生活でかかる困難さを軽減し改善するための適切な指導や支援を行う教育」です。本校には、けやき学級とくすのき学級がありますが、特別支援コーディネーターの先生や特別支援学級の先生、支援員の先生を中心にして「特別支援教育」がスムーズに進んでいると感じています。

「学力向上」についても、まずは私たち教員が日々、授業改善を続けています。少しでも子供たちが授業に興味をもつように、少しでも子供たちの思考力・判断力・表現力が身に付くように、一人一人の先生方が授業改善を行っています。そのうえで、真ん中の写真にもあるように、お互いの授業を見せ合い、その後授業研究会を行い、授業力を高めています。



令和7年度 三股町立梶山小学校 学校だより(No19)

【徳】豊かな心(やさしさいっぱい)

③積極的な生徒指導の取組



積極的の反対は消極的です。消極的な生徒指導とは、何かが起こった後に行う生徒指導だと捉えています。つまり、何かが起こる前に、人生を生きていくうえで、子供たちに大事なことを教えたり、様々な体験や経験をさせたりすることを積極的な生徒指導だと考えています。

「あいさつや会釈」「無言そうじ」「立腰」「安全指導」「避難訓練」……ありとあらゆる生活に関わることを積極的な生徒指導の基本として進めています。右側の写真は、地震・津波の避難訓練が終わった後、私の話を聞いている子供たちの写真です。



【体】たくましい体(げんきいっぱい)

④体力の向上の推進 ⑤基本的な生活習慣の確立 ⑥病気の予防と治療



「体力向上」「基本的な生活習慣の確立」「病気の予防と治療」についても、しっかり推し進めているところです。

「基本的な生活習慣の確立」や「病気の予防と治療」については、特に保護者との連携が大事だと思っていますので、学級通信や保健だよりをとおして、様々な相談やお願いをしているところです。

右側の写真は、「みんなで遊ぶ日」の写真ですね。何年も前から梶山小では全校児童で遊ぶ文化があります。この「学年の枠を超えた学校生活」は、「梶山小のよさ」の一つだと思います。

*毎年、梶山小出身の教育実習生が、本校で教育実習を行います。



みなさん、「みんなで遊ぶ日」のことを自慢気に話してくださいます。

令和7年度 三股町立梶山小学校 学校だより(No20)

【連携】家庭・地域・関係機関等と一体となった教育活動の推進(きずないっぽい)

⑦保護者との連携 ⑧地域との連携 ⑨関係機関との連携



*保育園との交流



*動物愛護センター来校



*都城交通安全協会来校



*読み聞かせ



*ゲストティーチャー



*ゲストティーチャー

学校運営協議会での教頭先生の話を聞かせていただきながら、梶山小では、「保護者との連携」「地域との連携」「関係機関との連携」がたくさんなされていることに、改めて気付きました。

令和2年度から令和5年度初めのコロナ禍のなかで、梶山小でも「家庭・地域・関係機関等と一体となった教育活動の推進」が正常にできなくなってしまいました。コロナ禍のなか、特に地域の方々との連携はむづかしくなってきました。

令和5年度から、本校の先生方は、「地域の方々とのつながりが、このままなくなってしまってはいけない」という思いで、一生懸命に地域の方々とのつながりを模索してきました。模索を続けますと、実は地域の方々も学校とつながりたいというお考えであることがわかりました。たいへんありがたいことです。

今の梶山小は、「保護者との連携」「地域との連携」「関係機関との連携」がうまくいっている状態だと言つていいと、私は思っています。

子供は、家庭と学校を中心にして育つています。そして地域社会の中で大きく育ちます。これからも、「きずないっぽい」をスローガンとして、引き続き、保護者・地域・関係機関との連携を続けていきたいと考えています。



*12月1日(月)に梶山小学校運営協議会が開かれたことから、今回「学校だより」を発行することになりました。運営協議会のメンバーの方々は、いつも、梶山小のこと・梶山小の子供たちのことを大切に思つてくださっています。これからも、メンバーの方々にも支えていただきながら、梶山小の子供たちが健やかに成長できる学校づくりに励んでいきたいと思います。